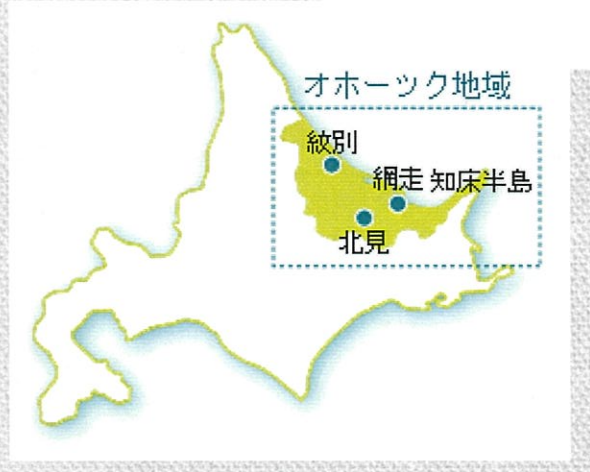
2106第2回全国木のまちサミット
課題別セッションⅠ－③

テーマ
上流と下流産業の連携と
域外に開かれた政策・施策が奏でる
持続可能な町の発展と住民福祉の向上

# 網走川流域農業・漁業連携推進協議会（通称：だいちとうみの会）の取り組み

北海道 網走郡 津別町長　佐藤　多一

# 津別町の概要




**オホーツク海に面する北海道オホーツク総合振興局管内の東南部に位置し総面積は716.80ｋ㎡**

- 人口　昭和35年：15,676人　⇒　平成28年：5,035人
- 高齢化率　平成26年：40％

- 総面積の約86％を森林が占め、**林業・林産業が町の基幹産業**を形成
- 昭和５７年に全国に先がけ「**愛林のまち**」を宣言
- 農業は小麦・甜菜・酪農・畜産が主で、近年では減農薬の馬鈴薯・玉葱栽培のほか日本初の有機畜産物JAS規格認証を取得した「**オーガニック牛乳**」を生産

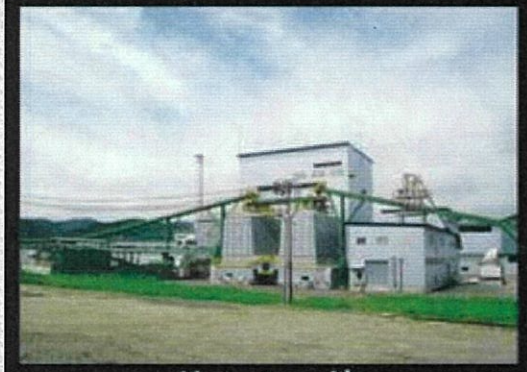
**津別町**
**公式キャラクター**
**「まる太」**

有休
農地
ゼロ
↓
法人化
して
若者が
次々
帰って
来ている
就農
農地が
足りない

# 丸玉産業株式会社（津別単板協同組合）バイオマスエネルギーセンターの概要

- 平成19年度にバイオマスエネルギーセンターを整備
- 工場の合板製造過程で発生する木くずを燃料としたコージェネレーション設備によって、工場で使う熱と電気をほぼ全量供給
- 北海道新エネルギー促進大賞（H20）、新エネ大賞・経済産業大臣賞（H20）新エネ百選（H21）など表彰を受賞

## コージェネ性能について



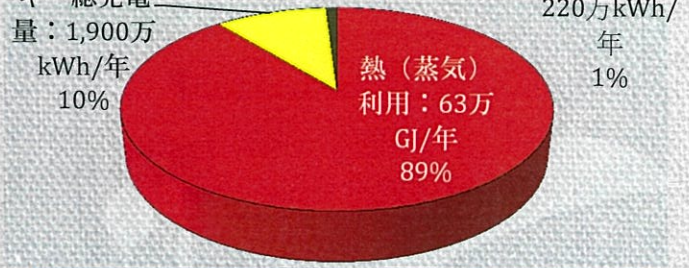
ボイラー棟

常用圧力：5.9MPa
蒸気量　：70ｔ/ｈ
蒸気温度：450℃
燃料消費：15 ｔ/ｈ

抽気復水タービン＆発電機

電　圧　：6,600Ｖ
発電量　：4,700 kW/ｈ

**丸玉産業（株）エネルギー利用状況（H19年度実績）**




- □ 化石燃料を原油換算で
  ２４，０００ｋＬ／年削減
  - ➢ 一般家庭の
    １６，０００戸／年相当
- □ CO2で６９，０００ｔ／年削減
  - ➢ トドマツ５０年生２０万本分

# 網走川

源流：津別町（阿幌岳）

↓

美幌町

↓

大空町

↓

河口：網走市

（オホーツク海）

- 総延長115km
- 1級河川
- 流域人口94,000千人
- 1次産業主体の地域で
  国内屈指の食糧生産基地

# 網走川流域農業・漁業連携推進協議会
（通称：だいちとうみの会）設立:平成23年5月2日

網走川の上流域

- **津別町農業協同組合**

  有機農業･有機酪農など恵み豊かな地で特色ある産業を展開

網走川の中・下流域：網走湖

- **西網走漁業組合**

  国内有数のシジミ・ワカサギ漁獲量を誇る

網走川の河口：オホーツク海

**網走漁業組合**

秋サケ漁獲量日本一にもなった有力漁協

# 「敵対関係」

網走川が氾濫すると網走湖やオホーツク海に土砂が流出　シジミ・ホタテ・シラウオに甚大な被害

「農地にサケ　海や湖にタマネギ」

台風農業のために河川は直線化。

廃棄物が一気に流される「廃水路」

家畜の排水で窒素やリンが流れ込み、下流では富栄養化を引き起こす。

台風による農地崩壊で濁流が流れ込んだ網走湖　H13.9　網走開発建設部撮影

# きっかけ

- **網走川サーモンアクションプラン**（H18.7～）

  畑のそばの川でサケが飛び跳ねるような環境を目指す

- **網走川流域農林水産業懇談会**（H19.2～）

  海の厄介者「ヒトデ」を堆肥に活用する取り組み

- **環境社会学者　大野　晃**

  「限界集落」概念を提唱。協議会主催のフォーラムでの講演や協議会への助言

# 意識の変化

## 農業サイド

- 「下流が困っているのを見てみぬ振りは出来ない」
- 平成２２年度津別農協振興計画「流域の環境の保全計画」が盛り込まれる
- 特徴ある産業「エコ農業」展開への思い

## 漁業サイド

- 「農家の努力が伝わってきた。湖に流れ込んだ土だって農家の財産」
- 有機酪農や、農薬や化学肥料を減らす「特別栽培」への熱意を理解

# 網走川流域での農業と漁業の持続的発展に向けた共同宣言（平成22年10月25日調印）

網走川流域での農業と漁業の持続的発展に向けた共同宣言

網走川水系は、阿寒カルデラ外輪山である津別町阿幌岳山麓を源流とし、美幌町、大空町を流れ網走湖を経由して網走市でオホーツク海に注ぐ延長１１５ km の一級河川で、流域の主要産業は農業と漁業であり、農業は、日照率に恵まれた肥沃で広大な大地に支えられ、漁業は世界有数の漁場であるオホーツク海と生産力の高い汽水湖に支えられ、国内屈指の食糧生産基地となっています。

私たちが生業とする農業と漁業は、人間の生活に欠くことの出来ない食糧を生産する産業であり、消費者に「美味しい」「安全安心な」食糧を永続的に供給する重大な責務があります。

また、農業と漁業は、流域の生態系の物質循環の中で「生物生産」を行う、本質的に持続可能な産業であり、私たちは、網走川流域の中心的産業としての自負を持って流域の環境保全に向けた取り組みを進め、そのことにより産業の持続性を強固にし、同時に、もっと「美味しい」「安全安心な」食糧生産を目指すことができると考えました。

このような理念の元、津別町農業協同組合、網走漁業協同組合、西網走漁業協同組合の３協同組合は網走川流域の繋がりを意識し、お互いの産業を尊重し、理解し、相互に多面的支援を行いつつ、豊かな自然環境と共存しながら持続的に発展するために、次のことをここに宣言します。

平成２２年１１月２５日

津別町農業協同組合
代表理事組合長 山下幹昭

網走漁業協同組合
代表理事組合長 山田邦雄

西網走漁業協同組合
代表理事組合長 大高隆吉

1．山と川と海の繋がりの中で、自然と共存した持続可能な産業を目指します。

2．網走川流域の土を守り、より美味しく安全安心な食糧生産に努めます。

3．網走川の自然環境を保全し改善し次の世代に引継ぎます。

4．流域環境保全に関する啓蒙普及に努め、連携の輪を拡げます。

# これまでの取り組み

H21.2
農業・漁業連携フォーラム開催

H22.3　水循環の確保に関するシンポジウム2010
大野　晃氏　講演

エゾノウワミズザクラの伏条枝移植活動

網走湖ワカサギ漁業現地視察研修

# これまでの取り組み

津別町有機酪農農場視察研修

出前授業　サケについての学習
サケからイクラを取り出す（津別小学校）

出前授業　牛についての学習
オーガニック牛乳試飲（網走呼人小学校）

道有林視察研修

# 網走川流域の会

- 2015年3月
- 産学官9団体56個人で設立

　２漁協（網走・西網走）

　４農協（津別・美幌・女満別・オホーツク網走農協）が参加

○「協議会」の取り組みが母体。

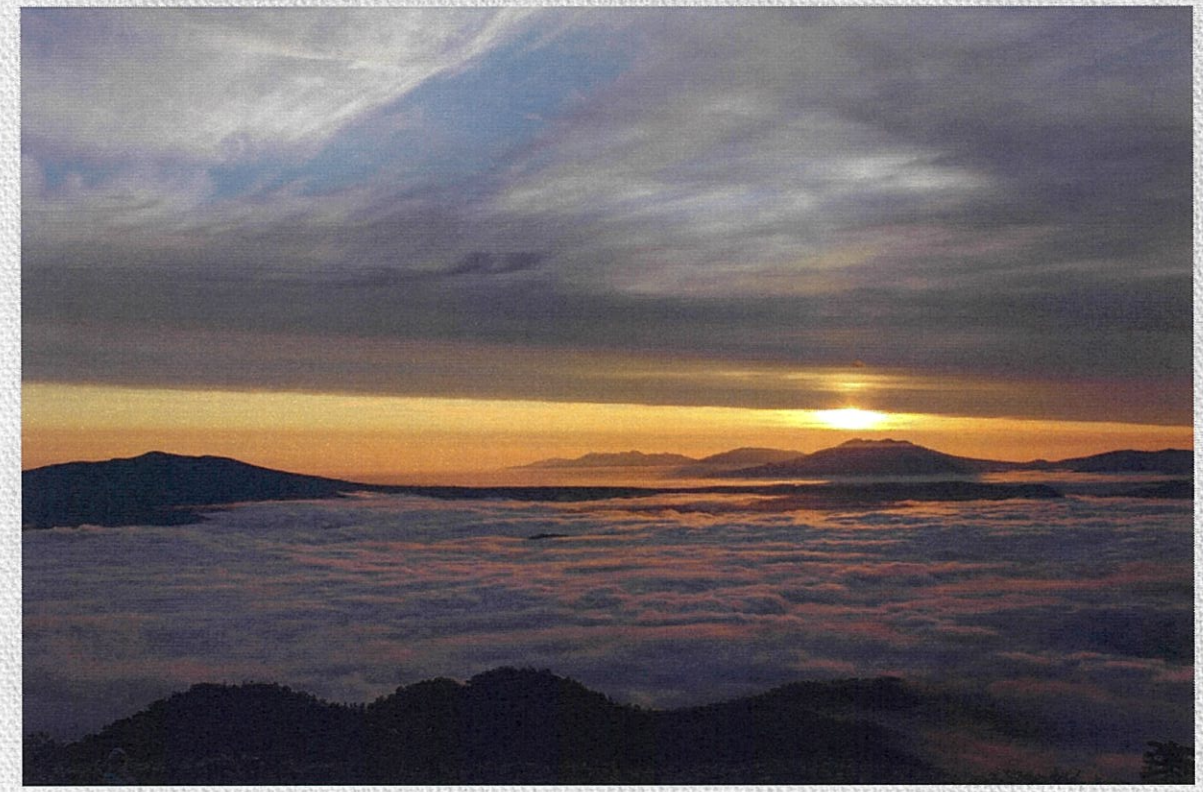
- ◎設立の目的

　網走川流域が育む独自の文化や風土、そして豊かな海と大地のめぐみを次世代に引き継ぐことのできる持続可能な地域協働による人・産業・自然が共生する流域社会の構築を目指します。

　そのために、流域住民をはじめ網走川流域に関わる各種団体、企業、行政機関、大学、研究機関が交流、連携・情報交換できる機会をつくり、人的ネットワークを築くことにより網走川流域の今後のあり方について共有意識の醸成をはかります。

# 網走川流域の会の取り組み

- 2016年6月26日
- 網走川流域の１市３町で一斉河川清掃活動

# おしまい

津別峠から見る雲海